高校をもう一校

期成同盟会が運動開始

市内にもう一つの県立高校を誘致しようと、豊栄地区県立高等学校誘致期成同盟会が十一月二十二日に結成されました。

会長には、石井市長が就任し、早速、県議会や県知事、県教育長などに請願書を提出して、誘致運動を開始しました。誘致しようとする高校は志望者が増加している普通科高校です。

知事に高校誘致を陳情する期成同盟会役員。(12月3日)

市内の高校は、豊栄高校と新発田農業高校木崎分校の二校です。豊栄高校は、各学年とも普通科五学級で二百二十五人、商業科二学級で九十人の定員です。今春の入試競争率は普通科が一・二四倍で、商業科は一・四六倍でした。

木崎分校は、定時制農業科一学級四十人の定員ですが、志望者の減少から存続が困難な状態です。

市内の中学校における今年三月の高校進学者は、五百二十五人で、このうち豊栄高校入学者は、三八・九％に当たる二百四人でした。これ以外の三百二十一人は、自分の学科志望があるにしても、地元高校の収容力不足から、遠い他市町へ通学しなければならないことになります。

しかも、市内各中学校の卒業者数は、五十九年度から増加を続け、六十一年度には、今年度より百三十人ほど多い七百二十二人の見込みです。

二市北浦の中学校長会で、明春の新発田学区の高校志望状況を調査したところ、新発田市内の普通科県立高校の志望者が、定員を三百三十人超過しました。他の高校と過不足分を調整しても、まだ二百人ほど超過して、この大部分が、豊栄高校普通科へ集中するものと考えられています。

二市北浦地区でも普通科高校が不足している状況です。人口の割合からみても、豊栄市と新潟市の阿賀北区域を含んだ地域に、普通科高校が不足しています。しかも、この地域は、人口の急増地域であるため、ぜひ普通科高校一校を誘致しようというものです。

二市北浦の中学校長会でもこの地域に高校を増設するなら豊栄市が最適だと、結論を出しているそうです。

なお、誘致期成同盟会は、これから活動を展開してゆきます。

大規模建設事業

建設計画等の審議会設置

市は、市役所庁舎等建設計画審議会を設置して、十一月二十六日に一回めの審議会を開きました。

毎年実施している「市長へのたより」を見ると、市民体育館や図書館、社会福祉会館などの早期建設の声が、かなりの数になっています。十一月には、市の連合婦人会から市民体育館建設資金として、十三万五千円余りの寄付がありました。

さらに、市役所庁舎も手狭になり、駐車場や本町通区画整理等も考えた将来計画をたてなければならない時期になっています。

このような建設要望の高い公共施設の建設については、市の総合計画基本構想に盛り込んでありますが、さらに具体的に建設順位や位置などを検討するため、審議会を設置したものです。

市長は、審議会から市民体育館、市民会館、図書館、市役所庁舎等について、建設計画を半年間ぐらいで検討してもらって、実施計画に盛り込んで行く計画です。

なお、審議会の委員は、次の人たちです。（◎印は委員長、○印は副委員長）

大野俊次（尾山）　小川竹二（中大口）　渡辺潔（内島見）　伊藤辰栄（下黒山）　嘉藤嘉雄（長戸）　横山和平（下大口）　○畠山佑二（浦ノ入）　清水智円（浦木）　阿部正吾（上浦ノ入）　岡田静司（高森）　山尾吉郎（中町）　小黒健次郎（嘉山一）　藤田三与（内新田）　小池沼（遠藤恭己（長戸）　島小三郎（白鳥）　文次郎（中大口）　秋山仁平次（町一）　◎小黒誠四郎（大月）

市税1,000円当たりの使いみち

今年度当初予算の市税総額は、12億4,493万円です。

	円
市議会の運営に	28
住民登録、戸籍、選挙、庁舎、その他役所の事務全般に	166
生活保護、老人、児童の福祉、国民年金などに	115
予防接種、ごみ、し尿の処理などに	103
勤労者のために	1
農林水産業の振興のために	56
商工業の振興、消費者保護のために	7
道路、橋の建設、河川の管理、公園、都市計画などに	148
火災予防、消火、救急活動などに	74
小中学校、公民館、博物館などの運営に	208
地方債の償還に	87
諸支出金として	1
予備費として	6
合計	1,000

市税は必ず納期内に納めましょう。

市議会 12月定例会

今年最後の市議会十二月定例会が、十一日から十九日までの会期で開かれました。議決された主なものについてお知らせします。

一般会計補正予算（六号・七号）

二回で一億三千八百万円追加

一般会計補正予算案は、国家公務員の給与改正法案の国会通過の関係により、市職員の給与改正条例案の議会提出が遅れ、六号と七号の議案として審議されました。

◎補正予算第六号

一般会計予算は、六回めの補正で、八千二百三十二万三千円追加して、歳入歳出それぞれ六十七億九千五百九十一万四千円になりました。

（以下一万円未満は省略）

歳入

追加補正した主な点は、次のとおりです。

○市税四千八百九十四万円

○自動車取得税交付金七百万円　○石油貯蔵施設立地対策交付金一千三千六万円

○国庫支出金二千六百五十四万円

なお、市債は、一千七百二十万円減額しました。

歳出

歳出追加等の主な点は、次のとおりです。

○　総務費は、一千七百九万円追加しました。事務補佐員賃金不足見込額二百三万円、自動車購入費二百二十七万円、木崎小学校・笹山小学校解体委託料七百九十万円などです。

○　民生費は、百四十六万円追加しました。身体障害者福祉費二百万円、豊栄マリア園補修工事補助金二百三十六万円などを追加しました。また二葉保育園改築工事費不用見込額等六百五十五万円を減額しました。

○　衛生費は、二千八百五十二万円減額しました。早通南汚水処理場増設工事費と用地費不用見込額三千百二十六万円を減額しました。

○　農林水産業費は、三千八百四万円追加しました。水田利用再編推進特別交付金二千九百六十九万円、農地費の負担金及び補助交付金五百六十万円などです。

○　土木費は、一千四百四十五万円追加しました。道路新設改良費七百八十四万円、公園建設費七百万円などです。

○　消防費は、二十六万円追加しました。

○　教育費は、三千八百七十万円追加しました。小学校管理費一千七百六十三万円、小学校建設費七百二万円、中学校管理費八百三十二万円などです。

◎補正予算第七号

人事院勧告に伴う、市職員の給与等五千六百四十一万九千円を追加しました。この補正で、一般会計予算は歳入歳出とも六十八億五千二百三十三万三千円になりました。

職員定数条例の改正

博物館職員の増加等によって、教育委員会事務部局の職員定数を四人増やして七十八人にすることにしました。

消防署木崎出張所の強化等によって、消防職員定数を三人増やして四十八人にすることにしました。

なお、定数の増加は、明年度からです。

市道路線の認定

次の道路を市道路線として認定しました。

○朝日町地内の道路六千八百五十五㍍

○長場・里飯野支線百五十一㍍

○早通・停車場二号線三百十㍍

国保条例の改正

助産費・葬祭費を引き上げ

被保険者の助産費を二万円引き上げて八万円に、葬祭費を五千円引き上げて二万五千円支給することにしました。

なお、改正した助産費と葬祭費は、十二月一日以降の出産と葬祭に支給されます。

国保会計の補正

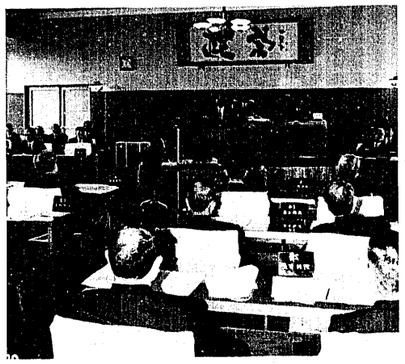
国民健康保険特別会計は、第一回めの補正で、三千八百八十四万三千円を追加して、歳入歳出それぞれ十二億三千二百九十五万三千円になりました。これは、療養給付費の不足見込み額や助産費、葬祭費の増額などによるものです。

し尿処理10㍑40円に

諸経費値上がりのため、明年四月から、し尿処理手数料を十㍑当たり五円引き上げ、四十円とすることにしました。

固定資産評価審査委員の再任

固定資産評価審査委員の月岡勇さん（相生町、七四歳）の任期が、間もなく満了しますが、再任することで議会の同意を得ました。任期は三年です。



十二月定例会の議場風景